

未来を見据えた増税と意義

西原町立西原東中学校 3年 外間 凜

「消費税増税って、無駄じゃない？」

「なぜ、払わなきゃいけないの？」

消費税増税に対して、よくこのような声を聞きます。私も、この作文を書くまでは、そう思っていました。しかし、実際に税について深く学び、消費税増税について考えてみると、今までとは違う見え方になりました。

まず、私の一番の疑問は、『増税された分の税金が何に使われているか』という事でした。増税分の税金は、主に、国の借金の軽減・教育の支援・医療や福祉の充実の三つに使われていました。

この三つの使い道には、ある共通している問題が関連していることに気付きました。それは、少子高齢化です。現代の日本は、だんだん高齢者が増えると共に、出生率が下がる事で、日本を支える働き手が少なくなってきました。消費税増税は、その状況を抑えるために行われたのかな、と自分なりに考えてみました。増税分の消費税の使い方を一つひとつ見ていくと、これから多くなっていく高齢者数に対応するための医療・福祉の面が一つ。教育費負担を軽減し、少子化を抑えるための教育の面が一つ。そして、そのような問題の解決にとりくんでいく未来の負担を軽減するための国債費の返済が一つ。これら全てが、次の世代のための貯金箱のようなものだと思います。少子高齢化は、すぐには解決できず、私達が大人になる十年後、二十年後も向き合っていかなければならない問題です。だから、その時代に向けて、今すべきことが十パーセントの消費税をきちんと納めるという事だと感じました。

私達は、これから、今までにはなかった新しい問題に立ち向かって時代を築いていきます。そのためにも、消費税や他の税金に対しても、マイナスに捉えるばかりではなく、その問題解決の支えになるものとして、しっかり学び、意見していく必要があると思いました。

また、最近では、ネットを開くと、『誹謗中傷』という言葉をよく見かけます。日本は、『おもてなしの国』と言われるほど、相手のことを考えられると思います。しかし、顔が見えないネットの世界では、乱暴な言葉があふれていて、その差に驚きやショックを感じた人も少なからずいるはずですが、仮に一人ひとりがもう少し他人の気持ちを考えられたら、その状況は変わっていくと思います。税に関しても、ただ払うのではなく、年齢関係なく学び、考えを持つ事で、日本の助け合いの精神は、どんな時、どんな場所でも生きてくるのではないかな、税にはそういった役割も秘めているのではないかなと思いました。

私はこれから、社会の一員として、誰かを支える身として、令和を築く一人として、税を納める意義を考えながら、日々を過ごしていきたいです。

支え合える未来が続くように…。